



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.net>

第 47 号・2017 年 9 月発行

北加日本語教師会 2017 年秋の例会

Saturday, October 21

Chabot College

会長挨拶・
お知らせ



会長挨拶・お知らせ
永田憲子



秋学期もお忙しいながら順調にお進みのことと存じます。さて、FLANC の学会と統合した NCJTA 秋の例会が近づいてまいりました。今回は、Chabot College にて開催され、「異文化トピックを教える日本語授業」“Teaching Intercultural Topics in Japanese language Classes” というテーマで発表を揃えております。

発表者の先生方には、日本語のクラスでどんな異文化トピックを扱い、どのように教えていらっしゃるか、具体的なLESSNプランとその学習評価などを紹介して頂きます。また、参加者の方々も交えて、異文化を教える重要性、問題点、工夫している点などを論じ合ういい機会になればと願っております。以下が、秋例会プログラムの概要です。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。



2017年 10月 21日 (土) FLANC/NCJTA 秋例会
日本語教育関係プログラム

- 9:00-9:50 Masahiko Minami, San Francisco State University
New developments in Japanese language education: Intercultural education from the perspective of cross-cultural psychology

We understand culture through human behavior that reflects patterns of speech and action that individuals internalize from their social environments. The Dutch social psychologist Gerard Hendrik Hofstede succinctly described this process of socialization as developing a series of mental programs for understanding and reproducing the surrounding culture, starting in early childhood family contexts and reinforced in schools and organizations that children attend. For effective intercultural communication, an explicit understanding of these mental programs that mediate culture is critical. This presentation focuses on one aspect of cultural socialization by examining the sociolinguistic environment as a touchstone for understanding individual behavior.

- 10:00-10:50 Nicholas Sturtevant, Palo Alto Unified School District
Translation as a Pedagogical Tool in the AP Japanese Language and Culture Classroom

This presentation seeks to address the important role that translation can play as a pedagogical tool for high school students enrolled in the Advanced Placement Japanese Language and Culture Course. While translation, when used poorly, has often deservedly come to be viewed as a regressive pedagogical practice, when used creatively and, more importantly, communicatively, translation can serve as a tremendously powerful vehicle for insight into a second language and culture. This paper will demonstrate, using student samples from an actual AP Japanese Language and Culture Classroom, how translation can be used effectively to harness students' intrinsic desire to interpret, discuss and present on various popular cultural topics in addition to more traditional Japanese poetry and literature. Student work will also be used to illustrate how the practice of translation can be used to reinforce students' growth mindset and reflection on their own language acquisition process. Comparisons will be drawn between antiquated grammar-translation methodologies and new standards-based approaches to translation in the classroom. (Note: This presentation will be delivered in English.)

- 11:00-12:00 Deborah Lemon (keynote speaker)
Many Voices: The Future of Communication, Language, and Language Learning
For more information, please visit the website: <http://fla-nc.org/wp/>

- 12:00-1:30 lunch (NCJTA アナウンスメントとメンバーの懇親会)

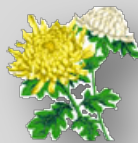
- 1:30-2:20 Nobuko Koyama, University of California-Davis, EALC
Getting ready to be an intern in Japan: Case of JCHIP (Japan Children's Home Internship Program) and steps toward intercultural competence

This presentation will examine the structures and contents of orientation and preparation processes designed for new interns for Japan Children's Home Internship Program (JCHIP) and identify each preparation step with steps to cultivate intercultural competence. JCHIP interns are undergraduate students learning the Japanese language at the University of California-Davis. Through this internship, they spend ten weeks volunteering at children's homes (roughly equivalent to orphanages) in summer while

NCJTA 会計から



秋の役員会 議事録



living on site 24/7 in a full immersion setting in Japan. For these students to have successful internship experience in Japan, intercultural competence is a key survival skill and knowledge. Until their departure for Japan, new interns have roughly four to five months for their preparation, during which they are gradually gaining their understanding of “What it takes and means to work in Japan” through their orientation and training processes. Examining these processes will help us understand how we can cultivate intercultural competence in a language classroom setting and further our understanding of teaching “culture.”

- 2:30-3:20 Kazue Masuyama, California State University at Sacramento
Promoting Intercultural Competence by linking curriculum to real world learning

It is important to be open-minded, interested, and curious about people and their culture. Interaction of people from different cultures using authentic language is indisputable for meaningful cultural learning. This session first shares how the presenter linked existing curriculum to real world events throughout a year and then showcases a couple of successful projects (e.g., hosting international visitors). At the end, the presenter discusses the impact of these attempts and how they have helped nurture the learners' growth mindsets.

- 3:20 – 3:25 会長からの挨拶
- 3:30 – 4:00 NCJTA 役員会合

NCJTA 会計から

NCJTA の会費は一般 15 ドル、学生 5 ドルです。2017 年度分の会費 (2017 年 1 月から 12 月まで有効) を未納の方は本ニュースレターに添付の年会費納入用紙とともにご郵送くださるか、秋の例会でお支払いください。昨年までの会費が未納の方も、今年のための会費で結構です。

秋の例会は例年通り、FLANC の一部として 10 月 21 日に Chabot College にて開催されます。尚、事前のグループ登録は 10 月 6 日で終了いたしますが、当日直接 FLANC の受付にて登録することも可能です。詳しくは FLANC のホームページ (<http://fla-nc.org/wp/>) をご覧ください。

(文責: 近藤・斉藤)

秋の役員会議事録

日時: 2017 年 9 月 10 日 11 時より午後 1 時半まで

場所: 211 Kalmanovitz Hall, University of San Francisco

出席者: 永田、南、斉藤、近藤、神原、高松、和氣、田中、スタートエヴァント、宇田、熊倉、伊藤、須田 (順不同)

議題

- 2017 年春の役員会議事録の承認
- 役員任期満了に伴う役員改選について
- 会計報告

2017 年 春の例会報告



- 秋の例会について
 - FLANC と 10 月 21 日（土）に合同開催(Chabot College)
 - 日本語関係発表者 4 名
 - 参加費 10 ドル（グループ割引、事前登録締切 10 月 6 日）
 - 昼食を 15 ドルで提供（ビュッフェスタイル）
- 高校での日本語教師不足問題について
- ニュースレターについて
- 日本語弁論大会・能力試験について
 - 北加日米会、サンフランシスコ総領事館、NCJTA 共催の日本語弁論大会に NCJTA から例年通り 100 ドルの寄付
- 2018 年春の例会について

（文責：須田）

春の例会

NCJTA2017 年春の例会は 5 月 7 日（日）午前 10 時から午後 3 時 30 分までサンフランシスコ大学にて計 39 名の参加者を迎え開催されました。「日本語のクラスでのプロジェクト」というテーマで小学校から大学まで各レベル、六名の先生方にご自分の授業で使われているプロジェクトについて発表していただき、そのアイデアを分かち合っていました。

大学レベル

- 神原若枝先生 (UC Berkely) 「UC バークレー日本語プログラム三年生のコースのプロジェクト」
- 近野靖子先生 (UC Berkely) 「UC バークレー日本語プログラム四年生のコースのプロジェクト」

高校レベル

- 菅野尚子先生 (Davis High) 「グローバルクラスメート」
- 森川知計先生 (Washington High) 「Connecting Dots of Wonders」

小学校・中学校レベル

- 田中理恵先生 (Presidio Middle School) 「教室の壁を超えたプロジェクト」
- 和氣かおり先生 (Rosa Parks Elementary School) 「ローザパークス JBBP 小学校 プロジェクトの取り組み」

（写真・文責：須田）





「文化を教える活動 :
Intercultural communicative competence の観点から」

齊藤百恵

スタンフォード大学

先日、スタンフォード大学の外国語講師を対象に Intercultural communicative competence に関する勉強会がありました。そこでの発表で学んだり考えさせられたことなどご紹介したいと思います。

World Readiness Standards for Learning Languages (以前は National Standards for Learning Languages) が掲げる 5 C の一つ「文化」に関する目標が、以前の「文化を理解すること」から「言語活動を通して文化知識やその能力を実践する」というものに改訂されました。このことを受け、スタンフォード大学の言語プログラムではどのように教室、または教室外で「文化を教える活動」を行っているか紹介をしました。また、それらの活動がどのように学習者の Intercultural communicative competence を養うことに貢献しているのか、また、どのような工夫でこういった能力を育てる活動になりうるか意見を交換し、文化活動やクラス内容を再考する機会となりました。

日本語プログラムでは毎年一回、「Japan Day」という文化活動イベントを設け、日本語の 1 年生から大学院のレベルまでの学生が一堂に会する場があります。茶道、書道、寿司作り、折り紙やけん玉などの日本の遊び、太鼓ワークショップなどの体験を通して文化に触れつつ、レベルを超えた学生同士の交流を図ることが趣旨になっています。

書道を例に文化活動の意義を改めて考えてみますと、まず、学生が実際に筆を持って、筆順や文字のバランス、字の太さ、見た目の美しさなどに気をつけながら、「書く」という活動を楽しみます。始めは、普段使い慣れない筆や墨を前に不安な表情を見せていた学生も、約 1 時間後には満足する作品を仕上げ、誇らしげに作品と一緒に写真を撮ったり、部屋に飾るために持って帰ったりします。

これらの活動を通して、学生は文化に触れるということ以外にどのようなことを学ぶ機会を与えられているのでしょうか。書道を体験した学生の声に耳を傾けてみますと、読み手の立場に立って書くことの大切さ（母語、外国語に関わらず）や、字を通して与える相手への印象などに気づいたなどという学生もいるようです。クラスでする漢字の指導では、筆順やバランスの大切さを何度となく叫んでも、なかなか理解してもらえなかったり、実際に学生が実践するまでに至らないのが実際のところでした。それは、読めればよいという意識や手書きの必要性が今の時代あるのかといった考えが背景にあるのかもしれません。しかし、書道の体験を通して、こういった考え方に変化が出てくるようです。

このような気づきや発見をさせるために、教師側でどんなことを学生に準備させたらいいのでしょうか。例えば、書道を体験する前に、学生に「母語で字を書くという活動」について振り返って考えさせたり、手書きとタイプした手紙の印象の違いを考えさせたりするなどすることで、学生自身が文化体験

(cultural practices) と文化のとらえ方(cultural perspectives)を関連付けるきっかけを与えることができるかもしれません。また、書道を体験した後、今までの考えと何か違いがあったか、自分の文化にも共通することがあるかなど、学生

お知らせ



お知らせ

総領事館インフォメーションセンターから

1・第44回日本語弁論大会の案内

当館、北加日米会及び北加日本語教師会は、第44回日本語弁論大会を以下の通り開催します。本弁論大会は、より多くの皆様に日本語を学習していただき、日頃の学習成果を披露していただくことを目的に行います。参加及び入場は無料です。奮ってご参加ください（詳細及び参加申込み等は、[当館ホームページ](#)をご参照願います）。

【日時】2017年11月5日(日)、午前10時：中高生の部、午後1時30分：大学・成人の部

【会場】New People Cinema (1746 Post Street, San Francisco, CA 94115)

2・JETプログラムの募集開始

2018年度JETプログラムの募集が10月に開始します（応募書類は在アメリカ合衆国日本国大使館の[ホームページ](#)から入手可能です）。

JETプログラム（The Japan Exchange and Teaching Programme）とは、アメリカをはじめとする外国の青年を日本の地方自治体で雇用し、小・中・高校における英語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業です。JET参加者はいずれも大都市から地方の中小都市や農村漁村まで、日本全国の津々浦々に配置されます。日本や国際交流に関心のある学生の皆さんに是非ご案内ください（なお、大学卒業が応募要件の一つとなっています）。

3・年賀状コンテストの開催

当館は、小学生及び中学・高校生を対象に、「2018年 年賀状コンテスト」を開催します。詳細は改めてご案内しますが、12月から1月中旬にかけて作品を募集する予定です。ご応募いただいた全ての作品は、1月後半頃から当館広報文化センター・ギャラリーにて展示される他、優勝作品は当館のホームページ及びFacebookに掲載される予定です。今年のお正月には160点以上のすばらしい力作が集まりました。来年も是非奮ってご応募ください。

第44回日本語弁論大会開催のお知らせ

北加日米会および在サンフランシスコ日本国総領事館は、第44回日本語弁論大会を以下の通り開催します。本弁論大会は、より多くの中高生や社会人に日本語を学習してもらい、日頃の日本語学習の成果を披露してもらうことを目的に行います。参加および入場は無料です。参加応募締め切り（2017年10月13

日（金）午後５時必着）など、本大会に関する詳細については、総領事館および北加日米会のホームページにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。
（文責：南）

日本語ページ

http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m07_02_06.html

英語ページ

http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr_en/e_m05_01_06.html

➤ 日時：2017年11月5日（日）

午前10時：中高校生の部

午後1時半：大学・成人の部

➤ 会場：New People Cinema, 1746 Post Street, San Francisco, CA 94115

本件問合せ先：

在サンフランシスコ日本国総領事館

住所：275 Battery Street, Suite 2100, San Francisco, CA 94111

文化事業コーディネーター 武井 mariko.takei@sr.mofa.go.jp

電話：415-780-6085（広報文化センター）

44th Annual Japanese Speech Contest

The Japanese American Association of Northern California (*Hokka Nichibei Kai*), the Northern California Japanese Teachers' Association (NCJTA), and the Consulate General of Japan in San Francisco are delighted to announce the 44th Annual Japanese Speech Contest on Sunday, November 5, 2017, at the New People Cinema located in San Francisco's Japantown. (Note by Dr. Minami)

- **DATE/TIME:** Sunday, November 5, 2017
 - 10:00 a.m.: Middle and High School Students
 - 1:30 p.m.: College Students and Adults
- **PLACE:** New People Cinema, 1746 Post Street, San Francisco, CA 94115

The primary objective of this contest is to encourage the learning and use of the Japanese language in the San Francisco Bay Area community, particularly among non-native speakers of Japanese. Consisting of (1) the **Middle and High School Student Division** and (2) the **College Student and Adult Division**, the speech contest represents a fun and challenging way for students at all levels to demonstrate their language and communications skills (application: no later than 5:00pm on Friday, October 13th, 2017). This event is free and open to the public. We hope to see you there! We also hope that you will share this information with anyone you think may be interested in joining the contest.

For further inquiries:

Consulate General of Japan in San Francisco

Address: 275 Battery Street, Suite 2100, San Francisco, CA 94111

Attn.: Cultural Affairs Coordinator, Ms. Mariko Takei

Tel: 415-780-6085 (Japan Information & Cultural Center)

E-mail: mariko.takei@sr.mofa.go.jp

ワークショップ・イベントのお知らせ

- *Foreign Language Association of Northern California* (FLANC) Fall Workshops and Conference
 - 日時：10月21日（土）9:00 AM – 3:20 PM



➤ 場所： Chabot College (Hayward) <http://fla-nc.org/wp/>

- グループ事前登録に関して、会員の皆様にはメールでお知らせしております。グループ事前登録は\$10 なので、通常の FLANC メンバー (\$50)、ノン・メンバー (\$65) の登録料などと比較しても、ずいぶんお得です。事前登録していただきますと、NCJTA 秋の例会ならびに FLANC に終日参加できます (FLANC のメンバーか否かは問いません)。
- ただし、北加日本語教師会がお取り扱いするグループ事前登録は 10 月 6 日に締め切りますので、それまでにグループ事前登録されなかった方は、誠に恐れ入りますが、当日個人でご登録いただくことになります。ご理解ください。
- グループ事前登録の小切手の支払先名は「FLANC」ではなく、「NCJTA」です。なお間違いのないようお願いいたします。
 - 登録料：\$10 昼食代：\$15
 - 小切手支払先名：NCJTA

小切手の送付先： Mayu Kondo Loffgren, Department of World Language and Literatures, San Jose State University, Clark Hall 421, One Washington Square, San Jose, CA 95112-0091

- 例会とワークショップは、ネットワーキングの場としてもご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、どうかふるってご出席ください。
(文責：南)

日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) の お知らせ

習得した日本語能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度である『日本語能力試験』が、今年度もサンフランシスコ州立大学で 12 月 3 日 (日) に実施されます。試験監督としてご協力いただいている経験豊富な日本語の先生の皆様にはたいへんお世話になっております。

試験会場も年々増加し、本年は全米 17 会場となりました。サンフランシスコ会場の受験者定員 600 名は、ロサンゼルス会場の 700 名に次ぎ、Ann Arbor, Michigan と並んで全米 2 番目の規模です。また、特別措置を必要とする受験者も例年数名おります。このように大規模になりますと、NCJTA 会員の先生には今年度も試験監督をお願いしなければなりません。何卒、本年も引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

現行の試験形式は、5 レベル、N1 (Advanced)、N2・N3 (Intermediate)、N4・N5 (Beginner) となっています。この試験形式は従来の 3 級と 2 級の難易度に大きな隔たりがあるという批判に対応したもので、コミュニケーションをよりいっそう重視した試験にするという意図もあります。おかげさまで、新試験形式導入以来 8 年目となり、受験者にも定着してまいりました。試験科目は、「言語知識 (文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」の 3 セクションに大別できますが、最も難易度の高い N1 と、その次に難易度の高い N2 では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目として 1 セクション、つまり、全体で 2 セクションとなっていますので、ご注意ください。ちなみに、受験願書の受付

先生の紹介欄



期間は8月28日から9月29日となっていました。

(文責：南)

先生の紹介欄

フェアチャイルド美香先生

- お名前を教えてください。

フェアチャイルド美佳です。(Mika Fairchild)。

- 教えている学校名、町を教えてください。

Oakland Nippongo Gakuen (Oakland) と Japan Society of Northern California (San Francisco) で社会人の方に教えています。

- 日本語教師はいつから？

2005年からButte County の小学校で日本語を教え始めました。今教えているオークランド日本語学園は、2011年からです。

- ご趣味は？

自転車に乗ること。Lake Merritt の辺りでよく乗ってます。9月に Zoomadanke のパフォーマンスを見たんですが、けん玉がうまくなりたいですね。

- 日本の出身地は？

人気キャラクター「くまモン」で知られている熊本県の熊本市です。

- アメリカに来てから何年ですか。

19年です。

- 仕事について、何か一言お願いします。

現在20代から60代の、日系人を含めた幅広い社会人、退職者の方々に教えていますが、皆さんとても熱心で学びたい意欲が旺盛です。平日仕事が終わった後のクラス、または土曜日の午前中のクラスと、コミットして来られる生徒さんに、来て良かった、また学びたいと思われるような授業をしようと日々心がけています。

- 会員みなさんへのメッセージがあればどうぞ。

会員になって間もないですが、ワークショップなどの勉強会にはできるだけ参加したいと思っています。今度会った時は、声をかけてください。どうぞよろしくお願いいたします。



私の学校でこんなことが……

学校から
の

プレシディオ中学校



5月30日から6月8日まで、プレシディオ中学校の生徒13名と日本に行きました。大阪では中学校と小学校に体験入学し、いろいろな授業、体育の柔道、給食、部活を体験しました。京都では寺院見学、足湯、仁和寺での宿坊、東京ではジブリ美術館、竹下通り、浅草、スカイツリーなどなど盛りだくさんの10日間でした。

(文責：田中理恵)

北加日本語教師会
連絡先

NCJTA Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Nagata Noriko
Modern and Classical Languages, Kalmanovitz Hall 382
University of San Francisco
2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117-1080
E-mail: nagatan@usfca.edu

<役員>

会長：Noriko Nagata 永田憲子(同上)

副会長：Masahiko Minami 南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu

書記：Kyoko Suda 須田恭子
University of San Francisco
E-mail: sudak@usfca.edu

会計：Mayu Kondo Loffgren 近藤真由
San Jose State University
E-mail: mayu200987@gmail.com
Momoe Saito Fu 斉藤百恵
Stanford University
E-mail: msfu@stanford.edu

ニューズレター編集：Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu

広報: Masako Shimizu O'Bryan 清水オブライアン真佐子

University of California, Berkeley
E-mail: masakoshimizu@sbcglobal.net

フランク連絡員: Masahiko Minami 南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu
Nobuko Takamatsu 高松信子
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

ウェブ担当: Koraku Mikami 三上香楽
Eimei University
E-mail: tmfrontier@gmail.com

<各レベル代表>

小中学校代表: Kaori Waki 和氣かおり
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: kwaki@sbcglobal.net
Rie Tanaka 田中理恵
Presidio Middle School
Email: rietanaka@gmail.com

高校代表: Nicholas Sturtevant ニコラス・スタートエヴァント
Silver Creek High School
E-mail: nicsensay@gmail.com

学園代表: Yoko Uda 宇田陽子
Soko Gakuen
E-mail: yokouda_n@yahoo.co.jp

コミュニティーカレッジ代表: Akihiko Kumakura 熊倉昭彦
Diablo Valley Community College
E-mail: AKumakura@dvc.edu

大学代表: Junko Ito 伊藤潤子
University of California, Davis
E-mail: jito@ucdavis.edu



Northern California Japanese Teachers' Association